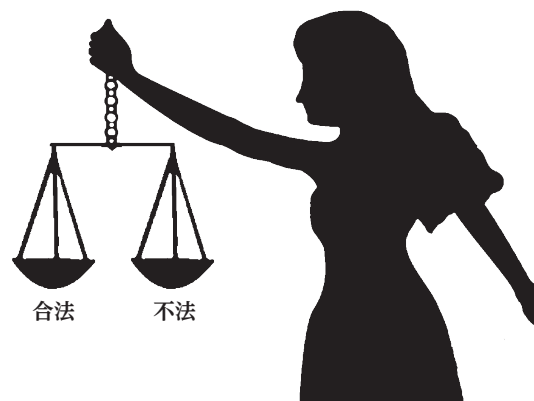


## ◇◇◇◇◇◇ 議員のひとりごと ◇◇◇◇◇◇

合法と不法の間に何があるか？そこは混沌としたフロンティアの最前線であり、置かれている立場や個人的な資質で様々な捉え方があると思う。積極的な立場をとれば、新たな社会を切り開くパイオニアとなるであろうし、逆に消極的に立てば、君子危うきに近寄らずとなる。

法（村の条例も住民に選ばれた議員の過半数の賛成によって成立するという意味では法と同質である）は本来的に保守的なモノであり、社会秩序を維持し、安定を目指す。しかし世の中は片時も止まっておらず、刻々と変化し続ける。この点からすると法と社会は相対立する構図となる。法は何とか既存の枠内に社会を押し込めようとするが（法の解釈や運用で）、それができなくなったときどうなるか？民主主義社会では法の改正や新たな立法措置によって解決を図ることになる。



では法の改正や新たな法ができるまでの間はどうか？ここが大きな問題である。村の仕事に焦点を当てて考えると村長は法の枠内で安全運転を続けるのか、多少のリスクは伴っても法のギリギリのところまで進んで新たな社会を切り開こうとするのか、トップとしての資質が試される。少なくとも法の規定の枠内で決められた仕事をコツコツと続けるのであれば、役場の専門職員だけで事足りる。

しかし住民の期待を担って村長に当選したのであればどうだろう？時に難しい判断を迫られることもあるのではないだろうか？

一方、私たち議員の立場は非常に悩ましい。というのも議会も本質的には保守的なものであり、村長の仕事にブレーキをかけ、法に違反しないかどうかチェックする大きな役割がある。

しかし両者が保守的な立場を堅持するとしたら社会は停滞し、住民の不満は鬱積してしまう。では議員はどうすべきか？時にブレーキをかけ、時に村長の尻をたたき、こういったことになるのだろうか？果たしてこのような芸当が可能か？見方によってはいわゆる和製英語のマッチポンプになってしまう。時に火を点け村長を煽り、またある時は火消し役に回るとのことだが。

いずれにしてもすべからく住民の厳しい目が求められる。

（ 白 雲 ）